

ミロク情報サービス参画のインボイスチェーン分科会において、 流通 BMS×トークン化預金、受発注から債権管理システムまでの データ連携に基づく決済/消込自動化に向けた実証実験が成功

～将来的な企業間取引業務自動化に向けて業務低減を証明～

財務・会計システムおよび経営情報サービスを開発・販売する株式会社ミロク情報サービス(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:是枝 周樹、以下「MJS」)は、デジタル時代にふさわしい金融インフラを構築し経済・産業の効率化と発展に貢献すべく、さまざまな企業/団体等と共に、望ましいデジタル通貨・支払決済インフラのあり方を検討する「デジタル通貨フォーラム」(事務局:株式会社ディーカレット DCP/本社:東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員 CEO 兼 COO:平子 恵生)に、2024年5月の設立時より共同幹事の一社として参画しています。

この度、デジタル通貨フォーラムのインボイスチェーン分科会は、サイロ化している各会計サービスや決済サービスの統一規格の検討や、法人企業間決済にかかる課題について、ブロックチェーン技術を活用した業界標準システムの構築および DCJPY^(※)による課題解決の可能性を議論・検討しています。このたび、株式会社ツルハホールディングス、イオンスマートテクノロジー株式会社、株式会社池田泉州銀行、花王グループカスタマーマーケティング株式会社、株式会社サイバーリンクス、株式会社ミロク情報サービス、株式会社ディーカレット DCP は、インボイスチェーン分科会から本実証実験の趣旨に賛同する企業とともに計9社で、流通 BMS を用いた受発注データから債権管理システムへの連携、およびトークン化預金による入金消込の自動化に向けた実証実験を実施しました。

※ DCJPY は民間銀行を発行主体とする法定通貨(日本円)と連動するプログラマブルマネーです。

<https://www.decurret-dcp.com/dc-forum/about/dcjpy/>

実証実験の参加企業一覧とその役割:

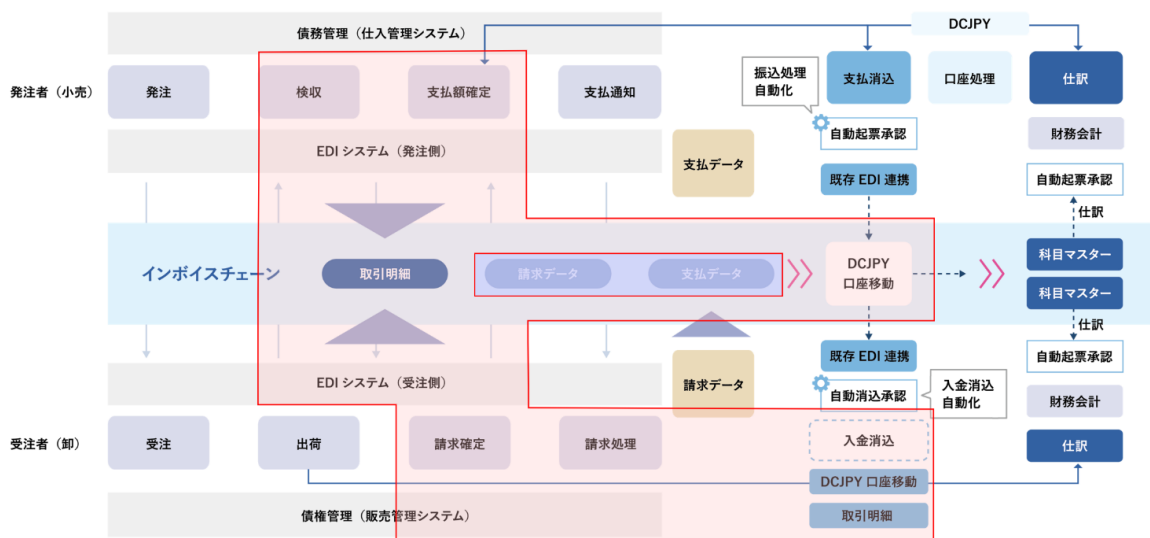
No.	会社名 <small>※リーダー企業以降50音順</small>	役割
1	株式会社ツルハホールディングス	流通BMSデータ提供
2	株式会社池田泉州銀行	銀行視点でのアドバイス、考察
3	イオンスマートテクノロジー株式会社	小売流通業視点でのアドバイス、考察
4	花王グループカスタマーマーケティング株式会社	債権管理システムとの連携結果考察
5	株式会社サイバーリンクス	(SI) 流通BMSデータ作成(抽出・変換処理)
6	株式会社ディーカレットDCP	ブロックチェーン基盤の提供
7	株式会社日立製作所	(SI) インボイスチェーン日立基盤機能開発およびAWS環境構築
8	富士通株式会社	小売流通業界でのシステムプロバイダーとしての知見提供
9	株式会社ミロク情報サービス	債権管理サービスとの連携結果考察

【図:実証実験のスキーム図】



- ※1 消費財流通業界におけるメッセージ（電子取引文書）と通信プロトコル・セキュリティに関するEDI標準仕様
- ※2 小売・卸・メーカー間で、商品が納品され、店舗側が検品（受領）した内容を送信するデータ（EDIメッセージ）
- ※3 店舗（小売）側から仕入先（卸・メーカー）へ、返品する商品の情報を伝えるデータ（EDIメッセージ）
- ※4 インボイスチェーン分科会が検討している債権・債務データ及び取引明細を格納するトークン
- ※5 受発注システムから会計システムまでを繋ぐことでシームレスな企業間取引を実現するプラットフォーム

【図:実証実験の範囲】



1.本実証実験の背景

企業間の請求・支払業務には、各工程間でシステムが分断されていることから、依然として非効率な作業が多く、売掛金と入金額、買掛金と請求額の確認・差分の解明・解消に企業は多くの人的リソースを割かざるを得ない状況です。

これらの課題に対し、インボイスチェーン分科会では EDI を利用している企業と利用していない企業では業務フローが異なることから、それぞれのユースケースごとにチーム単位で活動を重ね、実証実験の計画を練ってきました。

まず、2026年3月にEDIを利用していない企業群を対象とした紙の請求書から請求業務の自動化を実現するための実証実験を実施し、商取引データのトークン化による決済効率化の有効性を確認いたしました。

そして、今回の実証実験では、EDI 利用企業を対象とし、流通業界の標準規格である「流通 BMS」を利用している企業へ対象を広げ、受発注データから支払い、消込までワンストップで処理を行い自動化に向けた検証を行いました。

2.本実証実験の要旨

今回の実証実験では、小売・卸の企業間における流通 BMS (EDI サービス) を用いた商取引において、受発注から支払い、消込までの一連の流れをデジタルで完結させ、将来的には、各業務がワンストップで自動完結する仕組みの実現を目的に掲げました。

ツルハグループが保有する花王グループカスタマーマーケティング向けの受領データおよび返品データを抽出し、当該データをインボイスチェーンへ送信しました。そのデータを元に商取引トークンを生成し、DCJPY 支払いを行いました。

その後、インボイスチェーンより債権管理システムの債権データとの照合用として消込ファイルを生成し、机上で債権管理システムと連携させて消込作業が問題なくできるかを検証しました。

3.本実証実験の結果

①DCJPY での支払い:

受領メッセージと返品メッセージを元に指定した締め日までの合算データを生成し、額面通りの DCJPY での支払い完了が確認できました。

②債権管理システム用消込データ生成:

DCJPY での支払い完了後、債権管理システムの債権データとの照合用として消込ファイルの生成を行いました。

③債権管理システム連携(机上):

上記の消込ファイルには、入金消込に必要な諸項目が含まれており、対象債権管理システムにて消込できることが机上確認できました。

上記①-③の内容により、既存の商流システム(受発注システムなど)からトークン化預金 DCJPY による直接支払い処理を行い、債権管理システムへ消込ファイルを連携しワンストップ処理を実現するシステム化の可能性の確認ができました。それに伴い経理部で業務負荷が大きい売掛金の消込業務や仕訳・記帳処理等の業務が省力化され、数人月分の業務負荷軽減や業務プロセスの大幅な効率化が見込まれます。

4.今後の展望

今回の検証結果を踏まえ、短期的には現行業務フローを大きく変えない形で、売手側、買手側の経理部門における支払・入金業務の効率化と、売掛金と入金額、買掛金と請求額の確認・差分の解明・解消作業の自動化にて省人化を目指します。長期的には現行業務フローを改革し、完全無人化と財務におけるトレジャリー機能の強化を目指します。

EDI 利用企業のユースケースにおける機能課題の整理と解決方法の策定を行い、社会実装に向けて、さらに議論を重ねていく予定です。

■ デジタル通貨フォーラムウェブサイト

URL:<https://www.decurret-dcp.com/dc-forum/>

■ **株式会社ミロク情報サービス(MJS)について** (<https://www.mjs.co.jp/>)

全国の会計事務所と中堅・中小企業および小規模事業者に対し、経営システムおよび経営ノウハウならびに経営情報サービスを提供しています。現在、約8,400の会計事務所ユーザーを有し、財務会計・税務を中心とした各種システムおよび経営・会計・税務等に関する多彩な情報サービスを提供しています。また、財務を中心としたERPシステムを利用する約18,000社の中堅・中小企業をはじめ、約10万社の企業ユーザーを有し、各種ソリューションサービスの提供および企業の経営改革、業務改善を支援しています。

【本リリースに関する問い合わせ先】

株式会社ミロク情報サービス
社長室 経営企画部 広報・IRグループ 宮城・安藤
Tel :03-5361-6309
Fax :03-5360-3430
E-mail:press@mjs.co.jp